



錦城高校新聞 題字 井口 文章 再刊 第288号 印刷・発行 錦城高等学校新聞委員会 編集室 2019

みんなでつくる 錦城高校新聞

ご入学おめでとうございます! 錦城で過ごす卒業までの3年間は一緒に楽しんでいきましょう!

生徒の要望で図書室の椅子、改良 図書室のラウンジスペース、椅子の座面や背あて部分が新しい物に取り換えられ、新品のように綺麗になった。

春時雨に包まれ、踏み出す一歩

第57回入学式挙行政

4月8日(月)、第57回入学式が行われた。当日は天候にめぐまれなかったが、雨風に負けず美しく舞い散る桜が新入生496名を迎え入れ、新入生は期待と不安を胸に新たな一歩を踏み出した。



雨の中、クラス表で自分のクラスを確認しながら歩く新入生

学力だけでなく心も高める

桜が舞い散る中、新入生の57回生が錦城生として初めて登校してきた。あいにくの雨であったため、傘を差しながら自分のクラスを確認する新入生の姿が見られた。

新入生インタビュー

その後入学式が始まり、留学生1名を含む新入生496名が錦城生として迎えられた。松林博之校長先生は式辞で「部活動や委員会活動こそが人間関係を育てる」と話し、新入生に向けて大切にしてほしいことを3つあげた。「学習に積極的に取り組もう」、「理想を高く持とう」、「心を磨き体を鍛えよう」を大切にすることで充実した高校生活を送ることができると話した。

この日初めて知り合ったという伯勇貴斗くん(1G)と白髭凜くん(1G)は、中学時代に「報われない努力はあるが無駄になる努力はない」と言葉を送った。

伯くんは「まずは学校に慣れたいです」と話す。白髭くんは「勉強面では2年上があるときに特進に入りたいたい」と意気込んだ。また2人とも先生が優しく感じ、伯くんは「サポートしてくれそうで頼もしいです」と笑顔。

下さんは文武両道を掲げていることに錦城の魅力を感じたと言います。「部活と勉強を頑張りつつ、3年間を過ごしたいです」と話す。「JKライフ楽しみます!」と高校生活の期待を笑顔で口にした。

伯くんは「まずは学校に慣れたいです」と話す。白髭くんは「勉強面では2年上があるときに特進に入りたいたい」と意気込んだ。また2人とも先生が優しく感じ、伯くんは「サポートしてくれそうで頼もしいです」と笑顔。

英会話で高める実践的な英語力

イングリッシュスプリングセミナー開講

3月18日(月)から3月21日(木)にイングリッシュスプリングセミナーが行われた。今年度は昨年より倍以上の165名の生徒が参加し、様々な国籍の留学生と共にプレゼンテーションやディスカッションを行った。

参加した松岡美月さん(元2E)は、留学生の多くは英語が母語ではないため「自分と同じ立場で英語を学んでいる人が自信をもって英語を使いこなしている姿から、もっと頑張ろうと刺激を受けました」と話した。また英語には敬語がないため、距離感を感じずに話せたという。

今年も昨年同様、留学生講師のホームステイ先を錦城生から募った。イングリッシュスプリングセミナーのホームステイを受け入れた田中美海さん(元1E)は、外国人の私生活の中で特に驚いたこととして「イングリッシュスプリングセミナーでは、スプーンを飲む習慣がなく、スプーンを出しても飲んでくれなかったこととです」と話した。また日本語化に興味があると言ったことと、一緒に社巡りしたという。「とても有意義な機会でした」と振り返った。(杏・李・和)

JAPANESE ENGLISH

WONG YU LIAN(黄 宇廉):シンガポール出身/東京大学大学院に在学中

日本人がどう英語を学んでいるのかを知りたかったことからセミナーに参加。日本の英語学習には「英語の発音などをひらがなとして覚えてしまうこと」「シャイなこと」の2つの問題があると感じたそう。「No one laugh you. Don't be shy!」とメッセージをくれた。学習において大切なのは楽しむこと。「夢を持つことで勉強にモチベーションをくれるよ」と教えてくれた。



If you try and lose, then it isn't your fault.

Danilo B. Garrido Alves(通称 Dan):ブラジル出身/英国のケンブリッジ大学に在学中

加藤葵さん(元1C)の家にホームステイしていたDanさんは日本の文化をもっと知りたいと思いつき、「日本はきれいで食べ物もおいしいし、外国人にも優しい国」と話した。セミナーに参加して、日本人は積極的にない人が多いと感じたそう。錦城生に向けて「自分の英語を使って話したり考えを共有したりするのは恐れないで。あなたたちの英語は素晴らしいのだから」と力強く話した。(懂)

むらさき草

3月16日(土)、文化振興活動を中高生中心に取材した。今回の企画は、パラリンアートという障がいを持つ方による美術作品を取材するというもの。パラリンアートとはとても繊細で迫力があり、健常者が描いた絵と何と違わないように感じた。これは、パラリンアートというものを今日取材するまで聞いたことがなかった。知名度がないということ、社会への露出が少ないということが一因ではないだろうか。

一般に、障がいを持つというだけで、一般社会へ参加する機会が少なくなるといわれる。障がいを持つ方は、就職差別など色んな差別を受けているといわれる。差別について考えたとき、ハンセン病という病気を思い出した。外見の変化などから患者は差別を受けてきた。日本では、患者やその家族に対する強制隔離政策もあった。元患者の宿泊を、ホテルが拒否するなどの事件も未だに起きていた(西日本新聞2003.11.20夕刊)。

差別は障害や病気によるものだけではない。犬肉や鯨肉を食べる文化をあなたは思うだろうか。当然だと思ったり嫌悪感を抱く人もいよう。あれは野蛮な文化だ。差別はつながることもあるかもしれない。実際、文化による差別や、宗教による差別などが現実存在する。差別には思っているよりも多くの種類がある。その原因の一つは自分と他者の違いだと思ふ。自分と異なる点を恐れる。初対面や見知らぬ人に対してそれは最も顕著に表れる。春は出会いの季節。まずは、人を初対面の印象のみで判断するのではなく、きちんと相手の本質を受け入れ理解し付き合っていくことを大事にしていけば、世界中にある差別もいつか無くなっていくのではないだろうか。(莉)

フッキング同好会

顧問:阿部一郎
場所:旧校舎6階調理実習室

誰でも大歓迎!

生物部

活動日...水曜・日曜以外
活動場所...バスケット脇プレハブ

生き物好きのパラ〜ラダイスがここに

合唱同好会

活動日時
月・水・木・土
①15:40~18:00
②13:00~17:00

活動場所
英会話室
*水曜日のみ視聴覚室

初心者大歓迎!!
興味のある人はぜひ来て下さい!!

ART

DATA
55th 9名
56th 6名
(男2女13)

4F美術室 活動中

茶道同好会

*毎週木・金曜日
旧校舎6階和室で活動中

*初心者・男女問わず大歓迎!

個性溢れる世界によりこそ

アートで文化を伝えるホテル

3月16日(土)にパークホテル東京で「文化プログラムプレスセンター」取材会が開かれた。新聞委員会編集部は共同通信社から招待を受け参加した。4回目の文化プログラム参加となる今回は「パラリンアートミュージアム展」の取材を他校の中高生と交えて行った。

(編集部共同取材)

文化プログラムとは、五輪Cにより義務づけられている。文化プログラムのテーマに向けた文化振興活動のこころ、オリンピック・パラリンピック大会では準備の4週間、文化活動の推進が10ヶ月でなく、文化の祭典でもある。

新聞委員会編集部は2016年に開催された第1回取材会から東京五輪文化プログラムに参加。他校の中高生と共に様々な文化を取材してきた。私たちは今回で4回目の参加となる。「パラリンアート」を取材し「アートの最先端」を目的とした。

「パラリンアートミュージアム展」では、「パラリンアート世界大会2018」と「SOMPOパラリンアートカップ」の二つのコンテストの受賞作品を、パークホテル32階の回廊「Corridor Gallery 32」に11時から17時まで展示している。



「パラリンアート世界大会2018」グランプリ
Fann Wong Li Tung(シンガポール)『Fireworks』



▲「SOMPOパラリンアートカップ」2018年グランプリ
飯島純子(日本)『栄光のまなざし』

パークホテル東京主催で行われている企画展「パラリンアートミュージアム展」に参加した。このホテルは「美術館のようなホテル」として知られている。

展示されているのは、世界中の障がい者が芸術的才能を披露する2つの大会での受賞作品だ。1つ目は昨年開かれた、2020年に向けて毎年テーマを決めて世界中から作品を募集する「パラリンアート世界大会2018」。今回は「祭り」というテーマで作品を募集した。もう1つは損害

元新聞委員長もプレゼンで参加

同日、取材会の後共同通信取材会で「初めはちゃんと紙社内で文化プログラムプレ面を1つ作れるか不安でセンター研修会が行われた」と心うちを話した。

田矢さんは文化プログラムの終了後、毎回その日の内美桜奈さん(54回生)と、富容を記録していたという。士高校茶道部OGの青山日「これからのような活動まで各校の文化プログラム」とプレゼンテーションをまとめた。

田矢さんはバナンニックスセンター東京で行われた第1回の文化プログラム取材会から参加している。最も印象に残っているのは第1回



活動について話す田矢さん

最後に神成さんはこの企画展の目録について「初めに行われた世界大会での作品は『祭り』というテーマに対し、1匹の犬の絵など、一見テーマと関係ないように見える絵もあります。しかし、それが作者にとっての『祭り』であるためとても面白いです」と笑顔で語った。

様々な見方を楽しんで

「パラリンアート」とは障がい者によって作成された作品を見ながら、パラリンアートの魅力に触れた。また、この企画の関係者に話を聞いた。

展示されているのは、世界中の障がい者が芸術的才能を披露する2つの大会での受賞作品だ。1つ目は昨年開かれた、2020年に向けて毎年テーマを決めて世界中から作品を募集する「パラリンアート世界大会2018」。今回は「祭り」というテーマで作品を募集した。もう1つは損害



「気に入った作品を購入することもできます」と神成さん



「平凡でも小さな幸せがあると気づけた」

卒業生
錦城 53回生で、明治学院大学心理学部に通う伊藤愛乃さん。伊藤さんは明治学院大学のHabitat MJUというボランティアをするサークルに所属している。そこで昨年の夏に

ネパールへボランティア活動をするべく足を運んだ。Habitatはアメリカに本部を置く国際NGO。世界70カ国以上で各国の事務所と連携し、援助を必要とする人々の住居支援を行っている。また日本のHabitatでは海外の住居建築支援地にボランティアを派遣し、建築支援を支えている。

ネパールはインフラの整備が日本に比べて進んでいないため、ホテルでは1日に1回停電、ホテルでは1日に1回停電

伊藤さんは「日本にいると金を持っている人が幸せを得ていく。感じるかもしれないけど、(英)

ボランティアで見たネパールの姿

電、シャワーが冷水か熱湯しかないなど不便を感じることも多かったと話す。また気候の面でもネパールは標高が高いため、寒暖差が激しく大変だったそうだ。しかし現地の人々は優しく、毎晩湯たんぽをくれたり、1部屋に1つヒーターをくれたりととても親切だったという。

ボランティア活動を通して伊藤さんは「日本にいると金を持っていく人が幸せを得ていく。感じるかもしれないけど、(英)

錦城文芸

ヴァイオリン全日本第2位 「努力を活かしていけるようにしたい」

第35回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール弦楽器部門から練習を重ねてきた。将来は音楽家になりたいという。海外にも国内に22日(金)の修了式で表彰された。海外にも国内に22日(金)の修了式で表彰された。海外にも国内に22日(金)の修了式で表彰された。

第35回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール弦楽器部門から練習を重ねてきた。将来は音楽家になりたいという。海外にも国内に22日(金)の修了式で表彰された。海外にも国内に22日(金)の修了式で表彰された。



「順位が上がって嬉しい」と語る遠井さん

急募!
内容は、宿泊研修中のカメラ撮影、研修後の記事作成と紙面編集の手伝いです。「文章を書くのが苦手...」「カメラの扱いが分からない」という人でも大丈夫!先輩たちが一から優しく教えます!ちょっとでも興味を持った人は、新校舎7階奥にある生徒会室(新聞委員会編集室)まで来て下さい!

内容は、宿泊研修中のカメラ撮影、研修後の記事作成と紙面編集の手伝いです。「文章を書くのが苦手...」「カメラの扱いが分からない」という人でも大丈夫!先輩たちが一から優しく教えます!ちょっとでも興味を持った人は、新校舎7階奥にある生徒会室(新聞委員会編集室)まで来て下さい!

映画研究部
21年全国出場!
活動日 月~日(自由)
場所 新校舎七階
映画好き、集まれ!

文芸部
暖ゆるの来て目印です。
新校舎七階にて活動中!

室内楽部
活動日 月~金(土日祝休)
活動場所 新校舎3F視聴覚B、周辺教室
初心者、経験者、男子、女子、大歓迎!!
気軽に日本馬車にきてください!

陸上部
活動日 月~土(日曜はFREE)
活動場所 校庭、東大南公園、府中競技場
部員 2年生18人、3年生8人
初心者大歓迎!!
2年生には初心者だ!人が8人!!
その中から100人で都大会に出場した人もいます!

写真部
活動場所: 新校舎7階部室
活動日時: 不定期